

BSCA 公開シンポジウム in 東京

■ パネルディスカッション：記録（16:30～17:30）

岡氏（パネラー）

CxTE A は設備システム検査調整技師、CxTE B は BEMS データ処理・解析者としてはどうか。医療現場のように、チームに属する各々（CxTE）が各専門分野において技量を発揮し、CxPE がそれを統合することで良質なコミッシングが実施できるであろう。



大森氏（パネラー）

CxTE として、宮田氏が発表したような能力を求めるのは特殊すぎて難しい。Cx を身近に広げていくためにはハードルを下げたほうがよい。実際、現場の調整マンが CxPE の近くにいないとコミッシングは捗らないので、Cx を理解しようという意識のある自動制御や運転調整に関わる技術者を育てたいと思う。これらの方々が、単に上流からくる仕事だけをこなすだけではなく、より施主や設計者に近い立場になれば良いであろう。そのためにも資格は必要である。



高瀬氏（パネラー）

CxPE と CxTE の役割分担について、発注者に対しては CxPE がすべて責任をもち、CxPE の指示で CxTE が専門的な箇所を担えばよいのではないかと。

吉田先生（モデラー）

CxTE について、技術レベルで分けるという考え方と、分野で分けるという考え方があるであろう。

吉田氏（会場）

本日の発表を聞いていると、機能性能試験を実際に行う技能者を求めているように感じたが、技能は幅広いので、資格として認定するのはむずかしいであろう。技能と技術のどちらを認定するのかの議論が必要である。

笠置氏（会場）

解析能力がどうあるべき等と門戸を狭めてしまうのではなく、応募してくる人の経験や実績を見極めて、資格を与える方が良いのではないかと。キャリアを審査されるので、応募してくる人はかなりの実力・経験があるはずである。あまり細かく能力を指定する必要はないのではないかと。ただし、人格も重視すべきと考える。

吉田先生（モデラー）

若い人は新しいことをやることに魅力を感じるものであり、宮田氏の発表の内容は門戸を狭めているというわけではない。こういうことに興味を持っている人もいるであろう。資格としてどう整理するかを考えることが重要である。

笠置氏（会場）

実際の Cx プロセスでは、施主や設計者等の関係者間でのぶつかり合いがでてくるので、これについては CxPE がコントロールして、チームを盛り上げていく必要がある。

山本氏（会場）

オーナー側は（費用を含めて）成果を求めるものであるので、CxTE にはマネジメント能力が求められるであろう。チームを纏める力と全体的な成果を纏める技量が求められるのではないかと。

吉田先生（モデラー）

資格として CxPE と CxTE があり、CxPE がマネジメント能力をもつのか、CxTE がもつのかは議論する必要がある。大森氏は CxTE 独自でいろいろやっていけるのではないかと意見であった。山本氏の意見のとおりだと CxTE は CxPE を超えてしまうのではないかと。

中原先生（パネラー）

BSCA の役割として、CxTE を A、B、C に区分したが、B の中味を汎用シミュレーション技術だけでなく、専門分野の応用シミュレーション技術を加える形にし、C を修正する必要があるかもしれない。

赤司先生（パネラー）

CxTE の役割として、指定されたツールを使って結果を出すだけでなく、種々のツールを理解し、プロジェクトの目的・内容に応じて適切にツールを選択し、使い方を工夫し、結果を出して考察し、その評価・判断まで行うことを求めるべきではないか。この場合、Cx の規模によっては CxPE を兼ねることもでき、魅力的である。このためには、CxTE を経験や実績による登録制にし、CxTE としての業務評価を実績にフィードバックできる仕組みが必要である。CxPE に昇格する仕組みもモチベーションを上げるためには必要。

高草氏（会場）

シミュレーションが必要な局面もあると思うが、極めて稀であろう。シミュレーション等の高度な解析ができないと CxTE になれないというのは違和感がある。シミュレーションを作る人はある程度技術レベルの高い人であり、ここを基準に考えると議論が変になる。ツールにも色々あると思うが、市販のシミュレーションプログラムとの中身まで分かっていないと Cx ができないかということ、そうではない。

赤司先生（パネラー）

いろいろな分野が得意な人がいれば良いと思う。シミュレーション、計測、調整など、色々な技能が必

要である。様々なタイプの CxTE があればよいのではないかと。従って、登録に当たっては得意な業務がわかるようにした方がよい。

高草氏（会場）

CxTE の資格をとることがパスポートなのか、認定なのか。経験の浅い人も含めてやればよいのではないかと考えている。

吉田先生（モデラー）

現在シミュレーションを使える人が CxTE なのか、使える資質がある人が CxTE なのかは整理する必要がある。一方で、CxTE を団体として認めても良いのではないかという意見もある。

山田氏（会場）

設計意図が理解できるかどうかは分かれ目ではないか。出口温度を調整するだけというのは CxTE の資格としては不十分であり、設計意図を理解できるかどうかで線を引くべきではないか。

大森氏（パネラー）

CxTE には「Cx」と「TE」という 2 つの要素があるが、「TE」としての素養は千差万別あって認定するのは難しく、あまり重要ではない。一方で、「Cx」の方の素養、つまりどのようなキャリアで Cx のことをどのくらい知っているかの方が重要ではないか。

渡辺氏（会場）

BSCA の中で現場経験や教育の機会を与えるということも必要であろう。

須山氏（パネラー）

経済的に武器にならない資格は意味がないのではないかと。

杉原氏（会場）

適切なソフトウェアを選ぶ、必要に応じてカスタマイズができるという技量も Cx では必要であろう。

山本氏（会場）

社会的な必要性はあるので、チームが組める環境が必要である。いろんな資格者が今後必要になってくる。

三浦氏（会場）

今実施している検証業務が、Cx というプロセスの中に位置づけられれば、より重要度は増すであろう。CxTE は、資格として明確にしたい。

西山氏（会場）

資格制度を定着させてほしい。資格制度の中で技術の質が高まることを期待している。

上谷氏（会場）

資格を取ろうという意欲がでる仕組みが必要ではないか。

（以 上）